

報道関係者各位

2023.10
嵯峨嵐山文華館

よきかな源氏物語 開催のお知らせ



『源氏物語』 ゆかりの地・嵯峨嵐山で世界観に触れることができる企画展

嵯峨嵐山は平安時代中期に成立した最古の長編小説『源氏物語』にゆかりが深い日本有数の観光地です。当館の周辺には、主人公・光源氏の側室だった明石の方と、二人の間に生まれた明石の姫君が居住したとされています。また、徒歩圏内には、光源氏のモデルになったとされる源融（みなもとのとおる）の山荘跡「清凉寺」、光源氏がお忍びで六条御息所を訪ねた「野宮神社」、光源氏が建てた御堂の北側にあったという「大覚寺」などが存在します。

本展では千年の時を超え、今もなお愛され続ける『源氏物語』を題材にした日本画を、各場面の解説や、個性あふれる登場人物たちの人物相関図とともにご紹介します。

会期：2024年1月18日（木）～4月7日（日）

前期：1月18日（木）～3月4日（月）／後期：3月6日（水）～4月7日（日）

【主催】公益財団法人小倉百人一首文化財団
【後援】京都府、京都市、京都市教育委員会、
京都商工会議所

【作品点数】
前期／後期 合計：約50点

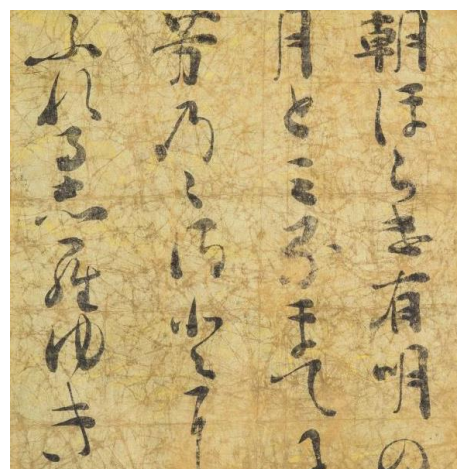
第1章 雅な世界へようこそ

『源氏物語』の作者として広く知られる紫式部は、10世紀後半、藤原為時の末娘として生まれました。幼少期から天才肌で、当時の女性としては異例であった学問に励み、儒教、歴史、漢詩など、様々な分野の書物を読破しました。歌の才能にも恵まれた上、仮名使いや琴、琵琶の演奏にまで長けていたといわれる平安時代きっての才女です。

結婚後は子宝にも恵まれましたが、わずか3年で夫が逝去しました。その後は宮中に移り、当時太政大臣であった藤原道長の娘・中宮彰子に仕えます。この時に執筆されたのが『源氏物語』でした。『源氏物語』は約70年にわたる光源氏と彼をめぐる人々の生涯を描ききった大河小説で、総勢500人以上もの人物が登場します。宮中における生活や、貴族たちの行動をつぶさに描写しており、当時はもちろん、鎌倉時代から現在に至るまで時代を超え、今や世界中で愛される文学作品となりました。



中村大三郎《紫式部》／京都市学校歴史博物館蔵



藤原定家《小倉色紙 朝ほらけ》／福田美術館蔵

第1章では、紫式部（平安時代中期）の人物を肖像画などで紹介し、『源氏物語』の写本を比較・校訂し、現在まで読み継がれる物語の基本形を作った藤原定家（平安時代後期～鎌倉時代初期）についても触れます。また、『源氏物語』を題材とした屏風絵などの作品を展示し、物語の内容もご紹介いたします。物語の各場面が描かれた狩野山楽晩年の秀作、『源氏物語押絵貼屏風』も見どころです。



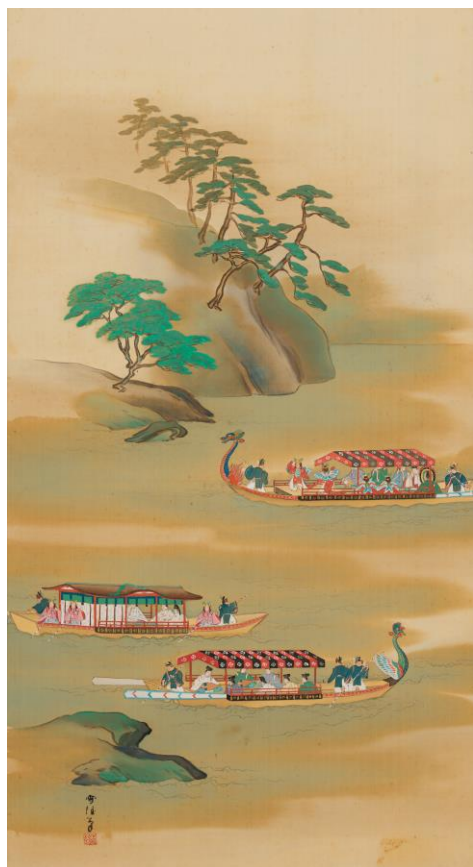
狩野山楽《源氏物語図押絵貼屏風》左隻／福田美術館蔵

第2章 よきかな、源氏物語

第2章では『源氏物語』の場面切り取って題材にしたさまざまな日本画を、各場面の解説とともにご紹介します。江戸中期の狩野派の画家・山本素軒の《源氏物語図屏風》では、明石の方と、その間に生まれた姫君に会いにきた様子が描かれています。玉圓永信の《源氏五十四帖図》では登場人物を描かず、象徴となる背景や持ち物・小道具などのみでその作品や演目を連想させるものを描く「留守模様」と呼ばれる手法が使われています。



山本素軒《源氏物語図屏風》右隻部分／福田美術館蔵



神坂雪佳《舟遊祭之図》部分／福田美術館蔵



案本一洋《夕顔》部分／個人蔵



玉圓永信《源氏五十四帖図》右幅部分／福田美術館蔵

歌川広重《美人と猫図》部分
福田美術館蔵



展覧会概要

■企画展名	「よきかな源氏物語」			
■会 期	2024年1 月18日（木）～4月7日（日） 前期：1月18日（木）～3月4日（月） 後期：3月6日（水）～4月7日（日）			
■休 館	2月18日（日）、3月5日（火）休館、2月17日は15:00で閉館			
■開館時間	10:00～17:00（最終入館 16:30）			
■主 催	嵯峨嵐山文華館			
■後 援	京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所			
■アクセス	〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分 阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分 嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分			
■料 金	一般・大学生	高校生	小・中学生	* 障がい者と介 * 幼児無料 * （ ）内は20
	1,000（900）円	600（500）円	400（350）円	

< 福田美術館両館共通券 >

一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円／障がい者と介添人1名まで：各1,300円

プレスリリース／広報用画像／ご取材に関するお問合せ

「嵯峨嵐山文華館」広報事務局（共同ピーアール内）
担当：田中、樋口、神（じん）
TEL：03-6264-2045 Email：samac-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

■ 嵯峨嵐山文華館について
TEL：075-882-1111（嵯峨嵐山文華館事務局）
お問合せフォーム：<https://www.samac.jp/contact>

プレス用画像一覧

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/yokikana/>

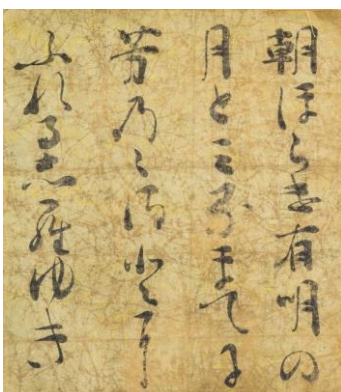
※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



①狩野山楽《源氏物語押絵貼屏風》右隻／福田美術館蔵 前期



②狩野山楽《源氏物語押絵貼屏風》左隻／福田美術館蔵 後期



③藤原定家《小倉色紙 朝ほらけ》
／福田美術館蔵 後期



⑤中村大三郎《紫式部》／京都市学校歴史博物館蔵 通期



④長谷川宗園《百人一首手鑑 紫式部》／嵯峨嵐山文華館蔵 前期

プレス用画像一覧

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/yokikana/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑥山本素軒《源氏物語図屏風》右隻／福田美術館蔵 通期



⑦山本素軒《源氏物語図屏風》左隻／福田美術館蔵 通期

嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

